

2024年度第5回理事会報告

開催日時：2024年12月22日（日） 10：00～12：00

開催場所：一般社団法人日本社会福祉学会事務局（Zoomによるオンライン開催）

I. 会長挨拶

定刻となり、和気純子会長より挨拶があった。

II. 理事会開会宣言（欠席理事の確認）

出席者全員がオンライン参加によるWEB会議の開催に際して、音声に問題なく、出席者が一堂に会するのと同等の意思表示が互いにできる状態にあり、議事進行に支障がないことを確認した。

定款第42条に基づいて和気会長が議長となり、出席理事および欠席理事を確認した。定款第43条に規定されている要件を充足したため、「2024年度第4回理事会」を開催するとの宣言があった。なお、定款第47条に則り、議事録署名人として和気会長、大島監事、岡部監事を選出した。

III. 審議事項

第1号議案 入会審査

総務担当金子（充）理事より配付資料に基づき説明があった。審議の結果、14名全員の入会が満場一致で承認された。今回承認された新入会員を含めて、2024年度の新入会員数は178名となり、近年で最も多い入会者数となった。

第2号議案 2025年度業務委託契約について

総務担当金子（充）理事より、2025年度業務委託契約について資料に基づき説明があった。（株）国際文献社より一部値上げを含む2025年度の契約書改定案が提示された。運営委員会で審議した結果、削減できる業務はないかなども含めて執行部で検討して改めて同社と交渉し、3月に開催する第6回理事会で最終的に決議することとなった。

第3号議案 2026年度秋季大会開催校について

北海道地域ブロック担当岡田理事より、地域ブロックで協議し、2026年度第74回秋季大会は北星学園大学が開催校となることに決定したとの説明があった。また、今後6年ごとに秋季大会を地域ブロックで担当することを視野に入れ、他大学所属の会員も含めて横断的に実行委員会を構成することとしたとの説明があり、審議の結果、満場一致で承認された。

第4号議案 特定資産の継続について

前回、特定資産対象事業の執行状況について、まずはきちんと精査して管理すべきとの指摘を受け、現状を把握し認識をすり合わせるため、期中監査に先立ち、和気会長、大島監事、岡部監事、総務担当金子（充）理事、財務担当杉山理事と国際文献社会計担当・事務局担当とでオンラインにて打ち合わせを行っ

た。両監事より特定資産の予算を全額執行できなかった場合、そのまま流動資産に組み込むのではなく特定資産の執行状況をわかりやすく明示して適正に評価すべきとの意見が出た。

前回理事会で和気会長より今後の特定資産の予算配分方法として 3 案提示されたが、その後対象事業の各委員会より提出された事業計画案と予算案について各担当理事より説明がなされた。

学会基本構想担当・金子（充）理事より、「子ども・若者による社会福祉学の探求的な学びの促進」事業として、「学会おすすめ図書リスト」の作成・配布や特設ウェブサイトの制作、年次大会における高校生・大学生の発表枠の設置、それに対する学会賞の授賞などを予定しているとの説明があり、70 万円の予算申請があった。

学会資料アーカイブ化事業について、元村理事より資料に基づき説明があった。前回理事会でリストを提示したが、大会要旨集やフォーラムの資料はすべて揃っていないため、それらを収集し、デジタル化してコンテンツを整理する予定で、50 万円の予算申請があった。

山野理事より研究者支援事業について説明があった。基本的に現在実施している事業はいずれも好評を得ているため継続したいと考えているが、現行のシンポジウムという形式は中止し、軽食を提供しフランクに対話ができる研究交流会の実施とサロンの開催を検討しており、80 万円の予算申請があった。

国際学術交流促進事業について、本郷副会長が欠席のため、和気会長より資料に基づき説明があった。日中韓だけでなく欧米からも 1 名もしくは 2 名を招聘する計画に基づき、予算申請されている。

デジタル化推進事業について山田理事より説明があった。コロナ禍で導入したオンデマンド配信は収束後も需要が大きく、継続する方針である。特定資産で初期投資し、その後の経常費用を抑える方針で検討していたが、経常費用を大きく削減することは難しい模様。今後、他の業者からも見積もりを取り、引き続き全国大会運営委員会で検討する予定との説明があった。

それぞれの企画について意見交換を行い、各委員会で再検討することになった。1 月に和気会長より各委員会に個別に連絡し、予算額を調整し、第 6 回理事会までに予算案を作成することとした。

第 5 号議案 地域部会委員会の委員の追加について

中国・四国地区ブロック担当石井理事より、第 57 回大会担当として藤島法仁会員を委員として追加したいとの説明があり、審議の結果、満場一致で承認された。

第 6 号議案 その他

その他の審議事項は特になし。

IV. 報告事項

1. 2024 年度会員動向

総務担当金子（充）理事より、2024 年度の会員動向について配付資料に基づき報告があった。2025 年 1 月 1 日より 3 月 31 日まで長期会員の申請を受け付ける。

2. 2025 年度事業計画案および予算案の提出について

総務担当金子（充）理事より、2025 年度事業計画書および予算案の提出依頼があった。

3. 期中監査報告

大島監事および岡部監事により、11 月 29 日に行われた 2024 年度期中監査について、配布資料に基づ

き報告があった。

4. 全国大会運営委員会からの報告

研究担当山田理事より、各行事の準備状況等について配布資料に基づき報告があり、その後、行事ごとにそれぞれ担当理事から詳細な報告があった。

5. 機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集担当坪理事より配布資料に基づき、機関誌『社会福祉学』の論文投稿受付・審査および編集状況について報告があった。また、査読ガイドラインの改訂案を作成し、後日理事会に提案予定である。

6. 国際学術交流促進委員会からの報告

国際学術交流促進委員会について本郷副会長欠席のため木下理事より配布資料に基づき報告があった。第72回秋季大会において、学術シンポジウムを開催し、「韓国・中国・日本における研究交流の推進に関する覚書」に基づき中国から1件、韓国から4件の自由研究発表があった。

中国の「東アジアフォーラム」は12月14日・15日に廈門大学で開催され、3名を自由研究発表者として派遣した。覚書更新にあたり中国で会談を行い、本学会の要望が反映された内容で合意を得た。

7. 学会賞審査委員会からの報告

学会賞審査委員会担当今井理事より、第72回秋季大会にて授賞式を終え、今後2024年対象の推薦受付を行うとの報告があった。

8. 研究倫理委員会からの報告

研究倫理委員会担当中村理事より、前回理事会で審議された二重投稿の事案について、当事者に結果報告を通知したとの報告があった。

9. 広報委員会からの報告

広報委員会担当岩永理事・片岡理事が欠席のため、配布資料を確認した。学会ニュース98号を2025年2月に発行予定である。広報委員会企画のシリーズ原稿について、「社会福祉士などの資格や専門職養成課程に、社会福祉学会が学術的にどのように関与するのか？」をテーマに12月にオンライン座談会を実施した。

10. アーカイブ化推進委員会からの報告

アーカイブ化推進委員会担当元村理事より、配布資料に基づき報告があった。

各大会要旨集のデジタル化作業にあたり、スキャン代行サービスを使用する予定で、スキャン後の利活用については引き続き検討する。

11. 研究支援委員会からの報告

研究支援委員会担当山野理事より、配布資料に基づき報告があった。委員会を開催し、第72回秋季大会1日目に実施したスタートアップシンポジウムの振り返りとサロン企画の準備について協議した。サロンは12月21日に同志社大学を対面会場としてハイブリッドで実施し、好評を得た。

12. 学会基本構想委員会からの報告

総務担当金子（充）理事より、12月5日に委員会を開催し、学会活性化事業について検討を行ったことが配付資料に基づき報告された。

13. 地域ブロックからの報告

- ・北海道地域ブロック：地域ブロックの2024年度研究大会を2025年2月または3月に開催予定。
- ・東北地域ブロック：12月14日（土）に第21回フォーラムを開催した。
- ・関東地域ブロック：2025年3月16日に「ソーシャルワークとAI」をテーマに関東地域ブロック研究大会を開催予定。
- ・中部地域ブロック：2025年5月に開催予定の研究例会の検討を進めており、第3回幹事会は2025年1月頃開催予定である。
- ・関西地域ブロック：報告事項は特になし。
- ・中国四国地域ブロック：10月19日に2024年度第2回中国・四国地域ブロック運営委員会をオンラインで開催した。9月12日に会報24-1号を発行。機関誌12号を12月に発行予定。また、「社会的養護の現状と今後一家庭養護への移行に伴って」をテーマに2024年4月から2026年3月まで会員連携の共同研究を実施している。
- ・九州地域ブロック：12月21日-22日に鹿児島国際大学にて研究大会・総会を開催する。

14. その他（関連団体からの報告、他）

◆関連団体からの報告

1) 日本社会福祉系学会連合

宇都宮理事より、11月30日（土）に、2023年度に実施したアンケート結果をもとにした「Withコロナ時代における研究に関する状況とニーズと学会活動のあり方についてのワークショップ」をオンラインで実施したとの報告があった。

2) ソーシャルケアサービス研究協議会

報告事項は特になし。

3) 社会政策関連学会協議会

所理事より、社会政策学会の大会が開催され、例年通り3月ごろに何か企画を実施する方向で意見交換を行ったとの報告があった。

4) 社会学系コンソーシアム

金子（充）理事より、2025年3月8日（土）に社会学系コンソーシアムと日本学術会議社会学委員会の共催でシンポジウムを開催予定との報告があった。

5) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会：GEAHSS（ギース）

第3号議案で報告済み。

6) 人文社会系学協会連合連絡会

和気会長より、総会が開催され、政府は法人化を目指しており、内閣府で有識者懇談会が結成されて

検討中との中間報告があり、今年中くらいに方向性が示され、対応が必要になる可能性があるとの報告があった。

7) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟

報告事項は特になし。

議長は、議事終了を告げ、12時30分に理事会を解散した。

以上